

小型移動式クレーン 学科練習問題

※下記問題は練習問題であり、学科試験と同一ではありません。

また、当センターの学科試験においても、下記のようにふりがなを振っております。

- 1、ラフテレンクレーンの特徴のひとつとして、小回りがきくので市街地の狭い現場で使用できるということがある。
- 2、定格荷重は、ジブの長さや傾斜角が変わっても変化しない。
- 3、ワイヤロープの1よりの長さの間において、素線総本数の12%の素線が切断しているが、そのワイヤロープを使用した。
- 4、過負荷防止装置は、フックがジブ先端に近づいたときに自動的に警報を発してワイヤロープの巻過ぎを警告する装置である。
- 5、ジブの伸長の順序は手前のジブから行わないと折損のおそれがある。
- 6、アウトリガーを設置しないでクレーン作業を行うことは禁止されているが、荷が軽い場合で作業指揮者の指揮があればその限りでない。
- 7、手信号による合図の「巻き上げ」は、親指を上にし、他の指は握り、上方に突き上げる。
- 8、荷をつり上げる際は、荷が地上からわずかに離れた（地切り）とき、一度停止させて、安全を確認するが、荷が軽い場合はその必要はない。
- 9、エンジンオイルには潤滑作用、冷却作用、密封作用、清浄作用、防錆作業がある。
- 10、油圧装置の長所は振動が少なく作動がスムーズであることなどがあるが、短所として配管が複雑になることがある。
- 11、作動油の色が黒褐色に変化している場合は、気泡が混入している可能性がある。
- 12、ジブやワイヤロープが高圧の電気が流れている送電線に直接接触すると大変危険であるが、接近するだけでも危険である。
- 13、玉掛け用のワイヤロープのつり角度が大きくなると玉掛け用ワイヤロープにかかる張力も大きくなる。
- 14、コンクリートは、1m³あたりの質量は7.8tである。
- 15、静止している物体は、外から力が作用しない限り、永久に静止の状態を続けようとし、運動しているときはそのまま運動しようとする性質がある。これを摩擦力という。
- 16、荷の重心位置の見極めは難しいので、二方向から重心位置を見極めるのが望ましい。
- 17、巻過防止装置は、フックなどのつり具の上面とジブの下面との間隔が1.0m以上となるよう調整すること。
- 18、氏名を変更したときは、技能講習修了証の書替が必要であるが、住所を変更した場合は必要ではない。
- 19、移動式クレーンで作業を行うときは、作業指揮者がいればその定格荷重をこえる荷重をかけて使用しても良い。
- 20、つり荷が軽い場合に、荷をつり上げるときは、外れ止め装置を使用しなくてもよい。

- 1、○ 2、× 3、× 4、× 5、○ 6、× 7、× 8、× 9、○ 10、○
11、× 12、○ 13、○ 14、× 15、× 16、○ 17、× 18、○ 19、× 20、×